

研究部会終了報告

昭和48年度末に以下の3部会が研究を終了した。

部会名	都市システム解析	ORのための統計的方法	探索理論
期 間	1972年5月～1974年2月	1972年9月～1974年3月	1971年9月～1974年2月
開 催 回 数	20回	18回	43回
おもに 使用した会場	東洋経済新報社	同和火災海上会議室	IBM データー・センター 都勤労福祉会館
正式メン バー (所属)	伊藤 滋(東大・主査)・安田八 十五(東工大・幹事)・井上喜代 重(建設省)・前島忠文(土木研)・ 秋口守国(建設省)・熊田禎富 (東工大)・春田尚徳(経企庁)・ 倉又 孝(野村総研)・福島 一 (野村総研)	三角義明(同和火災)・福島憲治 (日本歯科医師会)・田中庸平(中 部電力)・越阿紀良(東亜燃料)・ 浪平博人(ブリヂストン)・犬田 章(拓大)・渡辺 豊(三菱自 動車)・花輪契志(日本経済新 聞)・広津千尋(東大)・稲川和男 (専大)・長尾真也(大洋魚業)・ 小池将貴(三菱電機)・前田和男 (三菱電機)・坂井直美(日立金 属)・土屋栄一郎(富士銀)・杉田 義明(富士銀)・山本 栄(慶大)・ 橋本茂司(東レ)・藤野和建(東 大)・古林 隆(埼大)・飯川雅 孝(IBM)・堀内久勇(日本鋼管)・ 尾崎正亮(電力中央研)・梅田政 洋(日本コロソビア)・竹内 啓 (東大・主査)・関谷 章(慶応 ビジネス・スクール・幹事)	岸 尚(防衛大・主査)・飯田 耕司(幹事)・桜井保夫(幹事)・ 多田和夫(高崎経大)・赤池 仁 (日立情研)・坂口 実(阪大)・ 谷口浩一(警察庁)・本多明正 (防衛庁)・永井順正(新明和)・ 林 滋(東工大)・金安岩男 (IBM)・村上 知(防衛大)・戸 高和夫(CRC)・鹿毛健稔(防衛 大)
研 究 内 容	成熟社会に適した自律型都市 形成システムの構想とシステム 設計 1. 都市の失敗 2. 都市における役割システム と能力システム 3. 都市のシンボル・システム 4. 階層別都市観と自律都市 5. 都市における不適応階層の 適応化システム 6. 成熟社会に適した都市形成 システム 7. 自律都市の姿	企業において実際に生じた統 計的問題の分析,あるいは実際 の場に役立つ手法について毎回 報告および討論を行なう。 テーマは毎回異なるが,進行 中の問題については事後の検討 を再びきくこともある。形式的 な手法よりも,データの扱い 方,モデルの作り方についての 注意点を中心に考える。 なお,部会がスタートしたの が47年10月なので,49年9月 まで続けたい(49年度は予算は	1. 在来の探索理論の拡張 移動目標物に対する探索, ノイズがある場合の探索,探 索オペレーションの停止規則 2. 隣接研究領域の調査 IR故障検査,グループ・テ スティング 3. 探索理論の整理 文献目録,アブストラクト の整備 4. 提出書類 会合議事録,探索理論アブ ストラクト集

	8. 自律型都市形成システムに関するシミュレーション実験	請求せず).	
会 合 記 録 書	47年	47年	46年
	5/18 部分発足についてどんなことをやるか(全員)	9/14 会の進め方について一飛行機事故の統計分析(竹内)	9/4 部会の方針, 運営法
	6/8 課題の案 1. 都市解析の用語	10/13 歯科医師会員数の予測(福島)	9/18 Search Detection, and Subsequent Action(岸)
	2. 都市政策とシステム分析(全員)	10/30 プラット教授講演 “On Testing Linear Hypotheses”	10/2 ASW オペレーション(本多)
	6/29 都市政策決定におけるシステム分析の役割(安田)	11/16 事例分析の討論(報告予定者事故のためフリーターキング)	10/16 移動目標について, 2篇(渡辺)
	7/24 “ (前島)	1/12 経験分布・事前分布のあてはめ(関谷)	11/6 鉱脈の探索(清原)
	9/14 老人問題の視点から都市のシステム解析を行なうことに決定(全員)	2/14 ある回帰分析による予測について(小池)	11/20 通産省の情報検索(坂本)
	10/12 社会保障と都市システム(伊藤)	3/22 マーケティング・リサーチにおける統計分析(稲川)	12/4 Optimal Stopping(岸)
	“ 「高齢社会がやってくる」(井上)	48年	47年
	2/6 住生活の質的变化と有望事業機会(福島)	4/20 統計的決定におけるリスクの評価(関谷)	1/22 二分探索(村上)
	2/6 社会結合関係のネットワーク解析(安田)	5/18 経済予測の為に統計計算システム(飯川)	2/5 Optimal Whereabout Search(桜井)
	3/2 「都市発展に対応する生活環境施設設備のための動的・地域別投資配分」(和口)	6/22 マウスによる実験の統計的解析(藤野, 千葉(順大))	2/19 犯罪捜査
	3/2 経済社会基本計画における福祉政策(春田)	7/20 マーケティングにおける統計問題(稲川)	3/4 探索打切(飯田)
	48年	9/7 許容基準の決定—カドミウム汚染の例(竹内)	3/18 A Review of Search and Recon Theory(渡辺)
	5/8 都市における適応階層について(伊藤)	10/11 ミクロモデルとマクロモデルの結合(福島)	4/1 Scorpionの探索(岸)
	5/8 工業の導入からみた都市形成プロセスの分析(倉又)	11/15 エレベーターシステム設計のシミュレーション分析(小池)	4/21 搜索救難体制(佐藤)
	5/29 区画整理の選択システムについて(前島)	12/13 正規分布の仮定—検定の考え方(竹内, 藤野)	5/26 Two Sided Search Game(坂口)
	6/21 不適応集団の収容システムについて(熊田)	1/18 保険料算定の問題(三角)	6/3 ソーティングの技法(金安, 村上)
	7/30 都市社会における疎外の基本構造について(井上)	2/15 電力の需要推定—負荷曲線の推定(田中)	6/16 Sequential Search with Random Errors(桜井)
	8/13 都市社会における社会的外部不経済について(全員)	3/22 予定(小池)	7/1 2地域探索の最適停止規則(飯田)
	都市システムの構造把握について(全員)		7/21 Search and Information Theory(株)
	8/14 不適応集団の為に公社構想について(全員)		9/9 2段階探索について(桜井)
	10/2 磯村氏を囲んでの討論会(全員)		10/21 Semi-Markov Models of Search(岸)
			11/11 会計監査と探索(赤池)
			11/24 雑音源がある場合の探索(多田)
			12/9 Stopping Rule について
		48年	
		1/20 Search Models with False Detection(岸)	
		2/3 Sensor System の設計(本多)	
		“ Optimal Stopping(林)	

10/22 「成熟社会に適合した自律型都市形成システムの構想」第一次試論(全員)
 12/4 「成熟社会に適合した自律型都市形成システムの構想」第二次討論(安田)
 2/21 「成熟社会に適合した自律型都市形成システムの構想」本論文(熊田, 安田)
 3月をもって一応終了する。
 部会報告内容は、都市の組立てかたを決めてゆく人間集団相互の関連性を、特に老人、幼児集団に焦点をあてて整理をこころみたものである。都市を経済的側面や物的空間の側面からだけでなく、人間関係からながめなおし、これらの人間集団を都市社会構成を安定せさせてゆく要素として位置づけるためにはいかなる政策を考えてゆくべきかを論じたところに本部会の特長がある。
 すでに報告書はおおよそ400字詰めで50枚程度の草稿としてとりまとめられており、さらにこれを再構成しているところである。(主査)

- 2/17 Optional Search Model Moving Target (渡辺)
- 3/3 2段階探索(桜井)
- 3/17 Avoidance in One Dimension (村上)
- 4/9 Search for a Moving Target (中井)
- ” An Information Search (坂口)
- 4/21 Robustness and Optimality (岸)
- 5/12 Optimal Search with Uncertain Sweep Width(飯田)
- 6/2 Automatic Fault Location (村上)
- 6/16 Search Plans; Optimal v. s. Sub-optimal (岸)
- 7/7 Group Testing (鹿毛)
- 7/21 On the Theory of Random Search (Renyi)(戸高)
- 9/22 同上 つづき
- 10/6 故障検査(村上)
- 11/2 医療システム(神沼)
- 11/17 Optimal Stopping (Chew) (岸)
- 12/15 ASW Search Director (永井)
- 49年
- 1/19 Group Testing (鹿毛)

会報	計	47年度		47年度		1年度 期間 46.6~47.3	
		収入	支出	収入	支出	研究会回数	収入支出残高
		30,000		30,000		10回	
	支出	5/18 会合費 1,600		研究部会費 30,000			収入支出残高
		7/24 ” 5,000		通信費			部会費 30,000
		9/14 ” 2,500		9月分 390			会議費 12,850
		10/12 ” 2,400		10月分 990			連絡費 3,800
		” ” 6,000		12月分 360			消耗品費 13,119
		2/6 ” 5,000		2月分 380			合計 30,000 29,769 231
		3/2 ” 4,000		雑費 130			2年度 期間 47.4~48.2
		郵送代 800		食事代 5,200			研究会回数 17回
	合計	27,300		合計 7,450			収入支出残高
	残	2,700		残 30,000 - 7,450 = 22,550			繰越 231
							部会費 30,000
	収入	研究部会費 30,000					会議費 20,600
	支出	4/2 会合費 4,500		3 前年度より繰越			連絡費 4,925
		5/8 ” 4,500		22,550			消耗品費 4,251
		5/29 ” 3,300		3/12 送料 420			合計 30,231 29,776 455
		6/29 ” 4,500		4/15 封筒, 送料, コピー			3年度 期間 48.3~49.2
		7/30 ” 4,000		1,225			研究会回数 16回(2/25現在)

研究部会終了報告

10/ 2	"	5,000	5/12	送料	695	取 入 支 出 残 高	
10/22	昼食代	3,750	5/25	"	720	繰 越	455
12/ 4	会合費	3,750	6/18	封筒, 送料, コピー		部 会 費	30,000
2/22	"	4,050			1,475	会 議 費	15,440
2/ 6	郵送代	1,050	6	ORより		連 絡 費	4,500
合 計		38,350		30,000		消 耗 品 費	7,435
赤 字		8,350	7/18	送料	480	合 計	30,455 27,375 3,080
			7/27	食事代	15,000		
			9/ 3	送料, コピー	805		
			10/ 5	封筒, 送料, コピー			
					1,060		
			11/12	送料	500		
			12/10	送料(速達)	2,250		
			49年度				
			1/12	封筒, 送料	700		
			合 計	52,550	25,330		
			残 高	27,220			